



夏之部

中村俊定文庫
文庫 18
304
2



酒
天

七



るるるるるるるる



如き庵理然輯

其之部

更之夜

懐のゆを漆一主給の部
あふれおひのまこれ獲る人
新し給し一以しま更之夜
操るる後や居のころもく

多も身と流もはましく捨不
くしくもり流もふなり捨不
美やくと介流もりく——更夜
流もくもるふふの流の非
節のの中ふ目ふく流のふ
吾所流——くもやこらもく
くもるも流もくももら流もく
更ふくも流——のく——

えりも流も——く捨ん
流もくもるもくもらりも
か流も流の流も流も流も
流もくもるもくもらりも
くもくもるもくもらりも
くもくもるもくもらりも

東武老梅う流も招くもく

流もくもるもくもらりも

流もくもるもくもらりも

草薙めけりてしと野宿ふまを

はハ中月うららかにうらみの夜を

海嶽のうらや づきしと毒の露

更なるのうらやうらやうらやうらや
すしうらやうらやうらやうらや
うらやうらやうらやうらやうらや

むのまもん 鹿村 ちりしと海嶽

神のまもんのうらや

草とけいひまのうらやうらやうらや

まもん

陰うらやうらやのうらやうらや

うらやうらやうらやうらやうらや

お母

草葉のうらやうらやうらや

うらやうらやうらやうらや

うらやうらやうらやうらや

うらやうらやうらやうらや

うらやうらやうらやうらや

あつちき

懐くぬるやほんぬぬぬ

あつちき

遠くぬるやほんぬぬ

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

あつちき

流石に中道の細工のふかぬ
襦袢やきつりわも様々

拵着

きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも

拵着

きつりわもきつりわも

拵着

きつりわもきつりわも

きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも

きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも

拵着

きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも
きつりわもきつりわも

夕陽紅くくのもちあふ

ちとくよくちか指くくのもちあふ

郭く

くちまきくねくちまきく

この指目あふくく人郭く

十人く十りふかのやかく

ふねあふあふくくちのく

ほくくくくくくくくく

くくくくくくくくく

途中くくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

郭くくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

ほろほろすまふ園行りあまの煙
けき船底くさぬ田の都
河をう渡りけりまふくは
ほろほろすまふ園行りあまの煙
都をくさぬ田の都
ほろほろすまふ園行りあまの煙
都をくさぬ田の都

名所の都をくさぬ田

子紀つるまりぬぬ田をくさ

九里名の都をくさぬ田

水鏡つるまりぬぬ田をくさ

水鏡つるまりぬぬ田をくさ

都乃川流つるまりぬぬ田

水鏡つるまりぬぬ田をくさ

都乃川流つるまりぬぬ田

水鏡つるまりぬぬ田をくさ

おしりの旅りか 江戸部

り新しき言

三声目もなげり 言やほしき書

あまのちかふ部

あまのちかふ部 棧

中は川を過

あまのちかふ部 言乃 棧

江戸 長崎 寺島 長崎 船

石碑

あまのちかふ部

あまのちかふ部

あまのちかふ部

あまのちかふ部

東園 寺島 長崎 船

あまのちかふ部

江戸

あまのちかふ部

寺島の船

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

終

子規 修習のそとに

あつた

勢

あつた

はつた

三十一

はつた

あつた

はつた

あつた

はつた

あつた

はつた

あつた

清奥のねをたふすを能くしむ

ねふりのあつたひに、ねをたふす能くしむ

レイタイフ
ねをたふすの東よりしむる能くしむ

ねもねもも、ねをたふす能くしむ

ちんちんちんちん

くものあつたひに、ねをたふす能くしむ

ちんちんちんちん

ねもねもも、ねをたふす能くしむ

清奥のねをたふすを能くしむ

葉をたふす、ねをたふす、ねをたふす

ねのあつたひ

ねのあつたひに、ねをたふす能くしむ

ねもねもも、ねをたふす能くしむ

ねのあつたひに、ねをたふす能くしむ

ちんちんちんちん

ねのあつたひに、ねをたふす能くしむ

五

五

何れも世の事なりと云ふは
世の事なりと云ふは世の事なり

あはれなる人へ 親の行 此節

此節の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

八幡の節

行の事なりと云ふは

菟の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

行の事なりと云ふは

相の事なりと云ふは

相の事なりと云ふは

相の事なりと云ふは

五

五

春のうらも休まずや初乃花

結る花を過る

結もも成候ふ花もや初乃花

春梅

風一音をたけしをくま一花の宿

花結る

手折るう成候一りしや初乃花

結るもも成候の春梅も花結る

花もくも花結るなり初乃花

花

花もくも花結るなり初乃花

花結るは原の花

花もくも花結るなり初乃花

花

花もくも花結るなり初乃花

花結るは原の花

御福を来々くはなしく扱ふ

御事子孫を辨へ

御事や西の事此いそいで

御事

御事御事清くくわや御事

御事御事をくわぬくの事御事

御事御事をくわぬくの事御事

御事御事をくわぬくの事御事

御事御事くわぬくの事御事

御事御事くわぬくの事御事

御事御事くわぬくの事御事

御事御事くわぬくの事御事

御事

御事御事くわぬくの事御事

御事御事くわぬくの事御事

御事御事くわぬくの事御事

接後

いささらいさ—— 泣く人泣く目

仔細のをいささら

冬と秋のふらふら如きふら泣く

中付川 物中の其ふらふら泣く

今と秋と春も秋風ふらふら泣く

あきらめぬ

秋風のいささらぬあきらめぬあきらめぬ

東家祥林ふらふら

先と秋と春も秋風の白ひら

接後 二句

老の目をさす舞や新葉の白ひら

いささらの母のいささらのいささら

紙帖

川風伝ふるあきらめぬあきらめぬ

あきらめぬのいささらをいささらあきらめぬ

氏の名をうらむくいと北の波は

浪田の家は龍やとりくは京の原
の橋のまはりせらわくはくはねん
と口ふくはくはくはくはくは

龍やねんくはくはくはくはくは

まはくはくは

あくはくはくはくはくはくは

浪原くはくはくは

波はくはくはくはくはくは

波や

道子の影よとくはくはくは

塩竈はくはくはくはくはくは

龍や

くはくはくはくはくはくは

龍やのくはくはくはくはくは

龍やや明御の掛り龍

青の風

まくはくはくはくはくはくは

中よりしや 多士んをぬりしは 後

東武海軍うまう

るも けりし海軍うまや 船と 候

は 君のね

其れをすのち 海軍ひらうや 海軍のね

仔細のまじり

垢難くく けりし海軍うまう 船

西の海軍のまじり

ふく 海軍のね 海軍のね

神代

けりし海軍うまや 海軍のね

海軍のね

海軍のね 海軍のね 海軍のね

海軍のね

海軍のね 海軍のね 海軍のね

海軍のね 海軍のね 海軍のね

けふのちをばらばら — 葉白

子やなまふたふ

なみのけをばらばらばらばら

東氏をばらばらばらばら

なみのちの月のみまともまよりのま

接接

なみのちのちをばらばらばらばら

柳の枝をばらばらばらばら

はくあはははははははははははは

接接

はくあはははははははははははは

はくあはははははははははははは

はくあはははははははははははは

ちよとらふたふ

はくあはははははははははははは

はくあはははははははははははは

るるのこころし所や 二秋の身

るの柳のこころし

るるのこころし 柳の身

吹りのこころし

柳のこころし 二秋の身

るるのこころし

るるのこころし 柳の身

るるのこころし

はらのこころし 二秋の身

あまのこころし

るるのこころし 柳の身

るるのこころし

るるのこころし 柳の身

首途

るるのこころし 柳の身

るるのこころし

千々の逢方ハさむし〜

題 あり下回 あり

うらとりそりしむありや

新は原のあり〜

あつちのあり〜

あり

人々あり〜

小門様あり〜

あつちのあり〜

あり

あつちのあり〜

あり

あつちのあり〜

あり

あつちのあり〜

あり

よ使を〜〜〜

しんせうしんせうしんせう

少ね〜〜〜

推取

川口とて〜〜

書毫 尤も徳子の名に尤梅の名あり

む〜〜

よ使とて〜〜

風生〜〜

よ使の終ふ

縁青此又と〜

留分

そりけ〜

端年

終中〜

竹の〜

水干の帯のやまのよのよの
 内程もよのよのよのよの
 ちよのよのよのよのよの
 指のよのよのよのよのよの
 言のよのよのよのよのよの
 髪のよのよのよのよのよの
 袖のよのよのよのよのよの
 襟のよのよのよのよのよの

えのよのよのよのよのよの
 帯のよのよのよのよのよの
 水干のよのよのよのよのよの
 襟のよのよのよのよのよの
 目もよのよのよのよのよの
 二年の帯はよのよのよのよの
 後
 水干のよのよのよのよのよの
 襟のよのよのよのよのよの

水干の帯はよのよのよのよの

旅のついで

舟のあつちやうりさきしりしき

修書のねほき

おぼろしきつゆのしるし

あつちのついで

しきののぼちわうりしき

きつちのついで

舟のついで

舟のついで

旅人も世のついで

舟のついで

船のついで

舟のついで

舟のついで

舟のついで

舟のついで

舟のついで

お見もゆや田植のすまきーけ
るりーあまのちの田植の卯

るる

待と笑うり家も種ふらん田植時

青田

あまをきき世ふ飽くま田の卯

お見の種やま田のふあまき

京のるる魚く丸りー海も田ふ

海もあま里やま田の帆くけあ

青田の見やー種のをとと種

ーりまきあーあま田の丸

あまの成もふーあま海も田の卯

田のあまのふたりりあ

けー種をかしさーーたー田ああ

標

け真ー十玉あまやもあら

約言昔事しるふ事

乃ううしも吹きまの風のやうに

そのまゝのまゝ

そのまゝのまゝのまゝのまゝ

難司ヶ谷

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

浄甫居るまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

題世鳥草 南天の心

はる鳥草のや 海苔ふまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝ

南天のまゝのまゝのまゝのまゝ

那由多の心 枇杷

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

橘 南天のまゝのまゝのまゝ

信くくくく信乃信もゆー

一袋中ふたぢ

成るく信のまや まらみ

書

紙屑ふきく信くまのまや

ゆきく油さかかくあまん

ゆきくもふりりやま特

花りく信く信乃信もゆー

草のまやこまい一掃くま

ゆきく信く信乃信もゆー

ゆきく信く信乃信もゆー

ゆきく信く信乃信もゆー

ゆきく信く信乃信もゆー

ゆきく信く信乃信もゆー

ゆきく信く信乃信もゆー

ゆきく信く信乃信もゆー

獨ちの音やほろりの海へ
 らなりき 波もや 春のふちの
 りのちの音や 夜明けの人
 ねの音や 春のちの音
 ちのちの音や 春のちの音

お川東海をふきかき
 ちのちの音や

ねのちの音や ちのちの音

ちのちの音や

ちのちの音や ちのちの音
 ちのちの音や ちのちの音

水鏡

水鏡 ちのちの音や
 水鏡 ちのちの音や
 水鏡 ちのちの音や
 水鏡 ちのちの音や
 水鏡 ちのちの音や
 水鏡 ちのちの音や

奇蹟の年おきにくく水鏡の丸

雀のつゝきりて世の門や啼水鏡

まはらぬ縁の細色もあはれ

あはれ—あはれ

まはれ—まはれの水鏡のつゝきり

あはれ—あはれ

水鏡の年おきにくく水鏡の丸

あはれ—あはれ

まはれ—まはれの水鏡のつゝきり

水鏡

世にわたりて世を新く水鏡の丸

川も流る海もあはれ水鏡の丸

あはれ水鏡の丸水鏡の丸

水鏡の丸水鏡の丸

あはれ水鏡の丸水鏡の丸

水鏡の丸水鏡の丸

あはれ水鏡の丸水鏡の丸

おそろし〜いぬと人なり 杉岡より

仔細の三三の浦より

代垢新や 杉の 礎さりく 水の 澄

端平

羊の 髪や 水よの 住ま〜く〜つり

角新〜く 角中〜り〜く〜し 端平

流石

雨と小竹を さら〜や〜め〜は〜ぬ〜

幸の老〜き〜

竹〜枝〜多〜く 風も 縁〜新〜や〜ら〜や〜ん

畫堂

市 極〜り〜く 秋の 柳〜し〜啼〜し〜

九りふ〜き〜

お〜し〜待 九り 九り 九り 九り 九り 九り

波年〜き〜年〜き〜年〜き〜年〜き〜

風〜の〜ふ〜は〜き〜き〜き〜き〜き〜き〜

燈籠を今も流る所くの灯ぢふも
くぢふくくくくく

ちりりのさやほくらの揚灯籠

津路系

員くくく夜露くくは路ふふ

くくく路のさけくやふくく

鶴くく竹切

竹切く鶴く成あろけりく

竹切やちきくくく風く吹

首途く

竹切く柳くくりんく白里

留く

ゆくす結ゆくく啼や留く

暑

初のみふれ目好くくふきく

流るるくくくくく

輪の周のりふくくく

時をくぬ路の音れり山をくぬ
今堂平成流くま後のははら
才徳く味音わたくく是くく
つりまのりちをふちのりつり
い

い

か

彩

あ

向

あ
あ
あ

雷

あ

土

あ
あ
あ

拾遺の巻

草の葉は青くして花は白くして

藤子

あのもふはふもあや人よあはれ
納所お人よあはれあはれあはれ

拾遺の巻

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

西王母の書

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

そらうハもろくはちりーなるれ目

行掛

真の何れも我々もーり行ぬら

長言

行ぬきのハ言のーりー佛の那

細線

の涼け何んーりーらーら

りーのむれさーりや 夕まーり

寝ーのぬーちりーく道への那

水ーのりーけりーる所も涼への那

相違れもきーちりーやの涼

るそーりーぬえ出ーりーる涼

涼さへのぬれ木の涼への那

涼さへのこーりや夕まーり

りーぬも涼れりーん 夕まーり

世へのぬもぬーりーりやの涼

見川ぬ葉飲もやゆらゆら
うらぬ物もあ——ききき
きききききききききき
甲——きききききききき

信濃原田の桐舟の浮ぶ様ひく

見越——の影れは清きやきき原

見越ききの物涼

涼——きききききききき

新巻の巻

涼——きききききききき

五節の節の建てる書院の巻ひく
きききききききききき
の巻ひく

涼——きききききききき

甲田何れもあけのいよふたきききき
きききききききききき

涼——きききききききき

きききききききき

涼——きききききききき

初め平の御縁の國一このころは
まじくとも下へ御縁く来るは
縁をわたりはるる一わくはるる

水縁——名のかりゆき

はるは行ふ事か入る事か
帆は舟の目録くこころは

涼舟のたかや 舟御縁

幸舟河を川成御縁

舟縁——さるる

舟の御縁

涼舟の御縁

舟の御縁

涼舟を御縁

縁の御縁

涼舟を御縁

涼舟を御縁

涼舟を御縁

舟の御縁

涼舟を御縁

六

四十四

三つ一羽籠の鳥

涼〜〜〜〜〜

牛の乳〜〜〜

昔の牛ふは〜〜〜

竹の葉

夕涼〜〜〜

道 ぬけの原はあふれく〜

昔〜〜〜

さる〜〜〜

悔〜〜〜

境〜〜〜

たの世〜〜

遠〜〜〜

遠〜〜〜

遠〜〜〜

実保三年壬戌六月三日信長の下湯内行
かや〜〜〜

六

四十四

うねりぬきとまほは——やの峰
川を渡りてふりやちりり
孫の——のうららららららら
あつらふとまほは——
子囃——酒さやまの峰
神のまほは——やの峰
白きふまほ——やの峰

信濃飯田止らまほ——

信濃のまほとまほふ信あらまほ
うねりぬきの信の信あらまほ

山体もまほ——
信のまほは——

信のまほは——
愛宕まほ

あまのまほ——
清水

天月まほ——

そゆきの川水もあつたすけの法
お久——法波もあつた水の記

後記

昔の故にわつた新の浦清水

水も——道達——

あつた川水もあつた水の記

昔水

昔水もあつた水もあつた水の記

昔水もあつた水もあつた水の記

昔水もあつた水もあつた水の記

川將 仲給

川將もあつた水もあつた水の記

川將もあつた水もあつた水の記

川將もあつた水もあつた水の記

川將もあつた水もあつた水の記

川將もあつた水もあつた水の記

うらあしーらあのみあや仲籠
あましく料理場屋ー仲籠

あましくーあましく

あましくーあましくーあましく

あましくーあましく

あましくーあましくーあましく

あま

あましくーあましくーあましく

あま

あましくーあましくーあましく

あましくーあましくーあましく

あましくーあましくーあましく

あましくーあましく

あましくーあましくーあましく

あましくーあましくーあましく

あましくーあましく

長らくも里をくぐりて中を獨り旅

歌 清き月 村子

清き月や ねのしづかにいそがし

村子や 月よりの 影の 跡を 見

よき月

丸のいそがしを ちかき 影に 照らす

凡そ の ありや 海ふり 雲を 穿

草花 文の しの たり ちかき 月

よき 月 影の ちかき 影に 照らす

月 影の ちかき 影に 照らす

竹 節の ちかき 影に 照らす

月 影の ちかき 影に 照らす

月 影の ちかき 影に 照らす

月 影の ちかき 影に 照らす

月 影の ちかき 影に 照らす

月 影の ちかき 影に 照らす

まゝのやんこーまゝのやんこー

まゝのやんこー

まゝのやんこー

まゝのやんこー

まゝ

まゝのやんこー

まゝ

まゝのやんこー

まゝのやんこー

まゝのやんこー

まゝのやんこー

まゝ

まゝのやんこー

まゝ

まゝのやんこー

まゝのやんこー

六日 下 幸 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎
うり 下 橋 下 橋 下 橋 下 橋
七日 下 橋 下 橋 下 橋 下 橋
八日 下 橋 下 橋 下 橋 下 橋
九日 下 橋 下 橋 下 橋 下 橋
十日 下 橋 下 橋 下 橋 下 橋

山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり
山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり

六日 下 幸 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎

山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり
山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり

七日 下 幸 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎

山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり
山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり

八日 下 幸 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎

山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり
山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり

九日 下 幸 山 崎 山 崎 山 崎 山 崎

山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり
山崎のうり 橋のうり 山崎のうり 橋のうり

ちりりや ちりりや ちりりや

清光の早く 細塵の遅く

ちりりの氷を 押る 剣の ちりり

ちりり

ちりりの 雪や 澄み ぬる ちりり

ちりり

ちりりや 海を 渡る ちりり ちりり

ちりりや のち ちりりや ちりり

春の光の 境の ちりり

ちりりや ちりり ちりり

ちりり ちりり ちりり

ちりりの ちりり ちりり

ちりり

ちりり ちりり ちりり

ちりり ちりり ちりり

ちりりの ちりり ちりり

六
信の一冊ふりかへるをたしむる

信の一冊ふりかへるをたしむる

信の一冊ふりかへるをたしむる

